

i-Construction 推進コンソーシアム説明会（2） 質疑  
（2016年12月2日 11時～12時 @2号館 共用会議室3A）

Q：各WGは同時に開催されるのか？

A：WG間の連携が必要な場合は同時開催もあり得るが、基本は別々で開催する。海外標準WGは追って設置する予定である。

Q：技術開発・導入WGのマッチングはどのような方法で行うのか？

A：テーマを決めて行うか、オープンで行うかなど、まだ決まっていない。ご提案を頂き、WGで考えていきたい。知財をWGで管理するところまでは考えていない。

Q：1社で複数人を登録する場合、それぞれが登録すれば良いか？

A：それぞれで登録頂いて構わないが、代表者をどなたか決めて頂きたい。

Q：WGは、テーマを考えるより、ニーズ側とシーズ側をマッチングして、各々で進めて行くイメージか？

A：民々で進めて頂く以外に、官がニーズを出し、民からシーズを提案頂く場合もある。現場での活用を出口として、様々なパターンを総動員したい。

Q：技術の開発期間も各々のマッチングで決めるのか？

A：国の補助は1年間のため、補助を受ける場合はそれに応じたアウトプットが必要。国の補助に拠らないものは期限なし。新技術は日進月歩のためスピード感が必要であり、土工から他分野に展開して、3年内を目途に総ざらいをしたいと考えている。

Q：特定のWGに入った場合、加入したWG以外の情報も提供されるのか？

A：加入した特定のWGのみ提供することを想定している。

Q：同一部署からの複数人の登録を遠慮してほしいというのはどういう意味か？

A：事務手続き面でのこちらの希望である。まずは会員の登録からスタートし、WGが動き出せば登録のしくみなども変わる可能性がある。参加者と一緒に運営することが基本方針であり、参加を拒むつもりは一切ない。

Q：シーズ側はハイテクの技術でなければならないのか？ローテクのものでも良いのか？

A：AIやロボットなどが例として挙げられているが、目的は生産性の向上であり、目から鱗が落ちるようなローテクでも構わない。現場が良くなればよく、これまで障壁があって出来なかったものも扱う予定である。

Q：多くの会員が参加するとWGを牽引するリーダーシップが必要となるが、どう考えるか？ また、技術を持たず、WGには参加しないが、会員にはなりたい会社はどうすれば良いか？

A：WGの運営はこれから決めて行くが、実際の活動は総会ではなくWGベースとなるため、WGに参加頂く方が良い。大所帯となった場合は、数を絞る、別途委員会を設置するなどの方法も考えられる。

Q：新技術導入のための試行現場は提供されるのか？ 自治体にはどのように拡げられるのか？

A：国の支援は金銭的助成だけでなく、直轄現場を提供したり、会員の自治体の現場を借りるなどの調整も行う。寒冷地仕様といった現場環境にも適応させることが必要と考えている。

Q：WGの議論の途中経過は公開されるのか？

A：一般公開するもの、会員限定とするものなど、出てくる可能性がある。時期はずれるかもしれないが、一般に行渡るように工夫したい。

Q：WGで得た情報は外に流してはいけないのか？

A：各WGで決定する。基本的に制限を設けることはしないつもりである。

※1月に総会を開催する予定であり、できれば年内に参加申し込みを頂きたい。総会では、参加組織の名称や数を報告することになる。